源頼朝 武将，政治家。鎌倉幕府初代将軍。平氏・奥州藤原氏を滅ぼして全国統一，武家政権を創始した。

みなもとのよりと

・ ・ ・ ・ ・ 1147 = 熱田大宮司藤原季範の女を母に，**源義朝**の三男に生まれる。

保元の乱 ・ ・ 1156 = **9歳**：

後白河院政始 1158 = 11歳：皇后宮権少進に任官。

平治の乱 ・ ・ 1159 = 12歳：上西門院蔵人・内蔵人に補せられた。**藤原信頼**，**源義朝**らのクーデタが一時成功した際に従五位下右兵衛佐に叙任。しかし**信頼**，**義朝**らは**平清盛**に敗れ(平治の乱)，東国に敗走する父**義朝**に従ったが，途中，美濃で捕らえられて京都に送られた。斬罪に処せられるところを，清盛の義母池禅尼の口添えによって，
・ ・ ・ ・ ・ 1160 = 13歳：**解官**のうえ伊豆に配流され，伊東祐親，北条時政らの監護下に置かれた。

・ ・ ・ ・ ・ 1165 = **18歳**：

清盛太政大臣 1167 = 20歳：

配流生活は20年余に及び，その間，読経三昧の生活を送ったと伝えられるが，実際には側近の家人安達盛長や佐々木定綱らに奉仕され，また天野遠景，土肥実平ら伊豆，相模の在地武士たちとも連絡をもち，さらに頼朝の乳母の妹の子である三善康信から京都の情報を手に入れるなど，政治情勢の変化に注意していたらしい。

・ ・ ・ ・ ・ 1174 = **27歳**：
この間に北条時政の女政子と結婚している。

鹿ヶ谷事件 ・ 1177 = 30歳：

源氏一斉蜂起 1180 = 33歳：***以仁王**，**源頼政**の挙兵があり，以仁王の令旨をうけた頼朝は伊豆国の目代山木兼隆を急襲してこれを倒し，反平氏の旗幟を鮮明にした。しだいに勢力を増して武蔵，さらに相模の鎌倉に入り，そこを本拠とした。この時期までにはほぼ南関東一帯を制圧し，その傘下に集まった武士たちを家人として統制するために待所を設けて和田義盛を待所別当に任じた。

平清盛没 ・ ・ 1181 = 34歳：**平清盛**の病没後，頼朝は後白河法皇に密奏して，法皇への忠誠を誓うとともに源平の和平共存のことを申し入れたが，平氏側に拒否された。頼朝は家人の統制に意を用い，東国一帯の武力的支配をすすめ，その専制的政権の基礎をかためることに努めた。とくに御家人統制をみだす存在については厳しい態度をとり，

後鳥羽天皇 ・ 1183 = **36歳**：**独立性の強い態度**を持っていた上総介広常を誅滅している。この年源義仲が入京して平氏を西走させたが，義仲がやがて後白河法皇と対立すると，頼朝はこの機をつかんで再び奏上して，法皇以下公家政権の人々の歎心を買うことに成功し，ついに勅命をとかれて本位に復するとともに，彼が事実上の支配を実現していた東国諸国に対して，公的にその沙汰権を認める宣言をえた。この"寿永2年の宣言"は，頼朝による独自の東国政権が樹立されたことを意味する。次いで勅命をうけて頼朝，義経の2弟を西上させ，
・ ・ ・ ・ ・ 1184 = 37歳：**義仲**を近江に討滅し，引き続いて一ノ谷に平氏軍を破った。

平氏滅亡 ・ ・ 1185 = 38歳：***平氏**を屋島から壇ノ浦へと急追し，ついに族滅させた。この間，法皇に時局拾収策を申し入れ，諸国の武士を家人化して，全国的軍事警察権を掌握すべきことを要請する一方，鎌倉には公文所，問注所を設けて家政機関を整えた。従二位に昇叙。東国政権から全国政権へと前進するきっかけを得たが，

奥州藤原滅亡 1189 = 42歳：**義経**をかくまった陸奥の藤原泰衡を攻め滅ぼし，全国的軍事支配の体制を完成させた。挙兵以来10年にして内乱は終息されたのである。

源頼朝上洛 ・ 1190 = 43歳：**頼朝**ははじめて上洛して法皇に對面し，権大納言・右近衛大将に任ぜられたが，辞任して鎌倉に帰る。

鎌倉幕府始 ・ 1192 = **45歳**：***法皇**が死去し，ようやく征夷大将軍に補任された。ここに，武家政権の首長が征夷大将軍に任ぜられる慣例がひらかれた。

東大寺再建完 1195 = 48歳：東大寺再建供養のため再度上洛したが，

建久7年政変 1196 = 49歳：**京都**で九条兼実が失脚し政情は頼朝に不利に傾いた。そこで女の大姫を後鳥羽天皇に入内させ公武融和をはかろうとしたが大姫の死で実現せず，

・ ・ ・ ・ ・ 1198 = 51歳：**相模川**の橋供養に臨席した帰途に落馬し，

源頼朝没 ・ ・ 1199 = 52歳：**それが直接の原因**となって没した。